

# 崇慶府

**國  
体  
14  
連  
霸  
朝**

柔道の第4回全国高校選手権十勝支部大会（十勝柔道連盟、道高体連十勝支部主催）が12日、帯広の森体育馆で行われた。男子団体戦決勝で帯農（浦十夢・2年、一・二年生）

男子団体戦の上位3校は道大会(12月22、23日・札幌市)に出場する。

新には「周囲に支え柔道をしている。期待に応えるために必勝の気持ちで戦つた」という。初戦を1人で勝利に

自分の力出せず  
男子団体戦準優勝・江陵

# 開幕當天組全勝 劍道連盟



(左から) 四段の部で準優勝を飾った田村浩志・高木誠組、三段の部優秀賞の山本直人・高木万里子組

四全日本杖道段の部  
集大成「ミス無く」

杖道（じょうどう）の第44回全日本大会（10月8日・東京武道館）・全日本剣道連盟主催）の四段の部に出場した全十勝剣道連盟杖道部会（鈴木清志部会長）の田村浩志（58）・高木誠（43）組が準優勝を遂げた。また、三段の部では高木万里子（51）と山本直人（30）の母子ペアが最高位となる優秀賞を獲得した。

「できる」とは全て出し切り、ノーミスだつた」。田村は優勝を逃した悔しさよりも、達成感をにじませた。高木と組んでの出場はベスト8だつた昨年に次いで2回目。五段への昇段を

 杖道 2人一組の形武道。長さ4尺2寸  
1分(128セン)、直径8分(2.4セン)の白力  
シの杖を使用。1人が太刀で攻撃し、杖を持った  
もう1人がかわしてみぞおちなど相手の急所を狙  
う。2組の出場者が3人の審判員の前で6本の演  
技を行って競う。3本で役割を交代し、姿勢、氣  
勢、打突、技の充実度などで旗判定を受ける。

戦の2回戦を2-1で勝つたものの、4回戦は2-1準決勝がヤマ場だった。同じ十勝の仲間で前年覇者の高井宏行(50)・三戸部自太(34)組と対戦。田村は「遠慮せず、勝つてもおがらず、負けても腐らズ」と臨み、2-1で競り勝つた相手に杖から手が離れるというミスがあつたためで、高木は「1つのミスが致傷となる。ミスなくやるとが最低限」と杖道の難しさ、奥深さを感じ取った。

決勝の相手は札幌の浅井

で敗れはしたが、「ベスト4に道内勢が3組も入った。レベルの高さを示すことができたのでは」と田村は満足そうに振り返る。高木も「稽古を通して呼吸を合わせ、いいところ、悪いところを指摘し合つて修正してきた。2年目のコンビにしてはいい結果」と笑顔を見せた。

高木の妻万里子と山本の母子は初段のときと昨年もペアを組んだが、ともにベスト4だつた。今回3度目で優勝に相当する優秀賞に

万里子は「(昇段によつて)次は夫に組んでもらうとするよう修行に励みたい。また、息子が上がってきたときにも組めることが楽しみ」と意欲を新たにする。同杖道部会は会員を募集している。田村は「年齢や性別、剣道など武道の経験の有無に関係なく取り組むことができる」と呼び掛ける。問い合わせは事務局の三戸部さん(090・9756・3840)へ。



形稽古に打ち込む高木誠（右）と田村浩志（左）

輝いた。万里子は四段昇格

控えた田村にとつて今回は四段として集大成となる全日本だつた。

康孝・細沼哲也組。田村は万里子は「自信が戻ってきて、浅井と、高木は細沼と組んだ」と4回戦を3-0で突破し、最後の準決勝も2-1で勝つた。山本は「声が勢として切磋琢磨（せつさ

A photograph of a man wearing a dark blue kimono with a white collar and a small emblem on the chest. He is wearing glasses and has a serious expression, looking down at a sword hilt he is holding. The sword has a light-colored tsuba (guard) and a long, straight blade.

人帶

# かちまひスホリ

記録の速報は▶ [kachimai.mobi](http://kachimai.mobi)  
写真がほしい▼ 0120-25-9410



【男子団体戦決勝・帯農一江陵】 帯農の先鋒・浦十夢主将（右）は開始10秒すぎ、江陵の大将・西渕警陽にこん身の背負い投げを決め優勝を飾る

# 青帝農辰 國体14連霸

全國高選校柔道支部予

手権十勝支部大会（十勝柔道連盟、道高体連十勝支部主催）が12日、帯広の森体育館で行われた。男子団体戦決勝で帯農（浦十夢・2年、大平拓己・1年、斎藤竣也・2年、岡元格司・同、高橋颯吾・1年）は、先鋒（せんぼう）の浦主将が5人抜きで江陵を下し、14連覇を達成した。3位は帯大谷。男子個人戦は60kg級で岡元が連覇を飾るなど、軽量の3階級で帯農勢が優勝。81kg級は三樹圭亮（帯大谷2年）、無差別級は吉田和輝（江陵1年）が制した。7人が出場した女子同は中田ゆうき（帯農2年）が2年連続で頂点に立った。男子の無差別級は上位6人、ほかの階級は各上位4人、女子は出場者全員、

大会（12月22、23日・札幌市）に出席する。  
（折原徹也）

目標は全道一  
　　帯農

　　帯農が男子団体戦で圧倒的な強さを見せつけた。

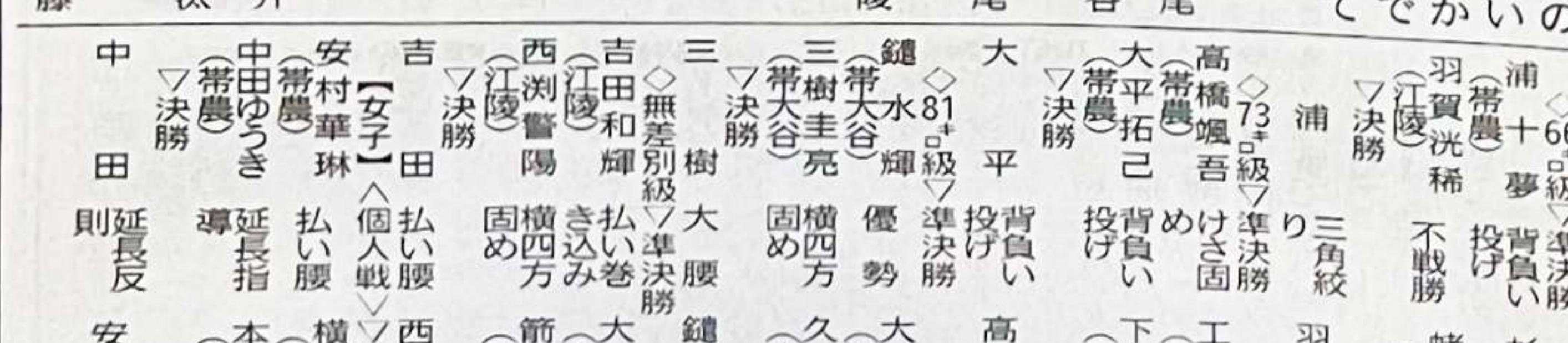
　　初戦の広尾には、先鋒の大平拓己がいずれも1本勝ちで4人抜きを達成。個人戦無差別級の優勝、準優勝者など重量級をそろえる江陵との決勝では、先鋒を務めた浦十夢主将が、個人戦無差別級優勝の吉田和輝に優勢勝ち。同準優勝の西渕警陽には開始11秒に背負い投げで一本を奪うなど5人抜きで優勝に花を添えた。浦主将は「投げ切ること



柔道をしている。待に応えるため必勝の気持ちで、勝つ」という。戦を1人で勝利導いた1年生の平は「73kg級にり替えて体力はちたが、ここまで戦えて自信になた」と収穫を語る。現在の1、2年生は軽量選手がく、筋力トレーニングや走り込み体を変えていくことで全道の団戦に備えていく。「目標は全道一(浦主将)と高を目指す。

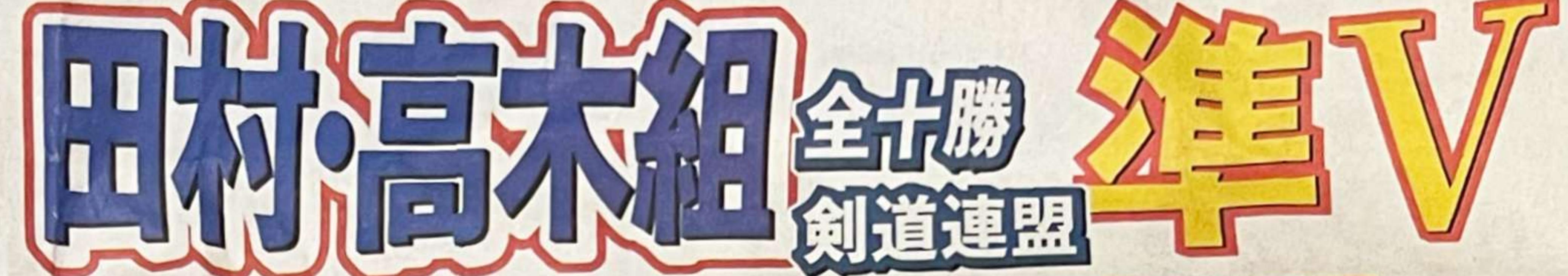


話決勝では思い通りに、かず、自分の力が出せなかつた。道大会では1試合で多く戦えるよう頑張つてしまいたい。



## 自分の力出せ 男子団体戦準優勝

・江陵	話	決勝では思い通りにいかず、自分の力が出せなかつた。道大会では1試合で	浦	下重竜太主将(2年)の
△決勝	(江陵)	羽賀洸稀	(帯農)	十66口紳
		不戦勝	投げ	背負い
		(帯大谷)	蛇名輝	杉本翔伍



A group of four people, three men and one woman, are standing in front of a wooden wall with vertical panels. They are all wearing dark-colored uniforms with white belts and are wearing gold medals around their necks. Each person is holding a certificate or document in their hands. The man on the far left has a name tag on his chest that reads '田村' (Tanaka). The man next to him has a name tag that reads '北島道 高木' (Kitamisado Takagi). The man on the right has a name tag that reads '山道' (Yamada). The woman on the far right also has a name tag that reads '山道' (Yamada). All four individuals are smiling and looking towards the camera. In the top right corner of the image, there is a yellow sign with Japanese text that reads '混雑時に譲合ってください' (Please give way when it's crowded).

混雑時に  
譲合って  
ください

杖道（じょうどう）の第44回全日本大会（10月8日・東京武道館）・全日本剣道連盟主催）の四段の部に出場した全勝剣道連盟杖道部会（鈴木清志部会長）の田村浩志（58）・高木誠（43）組が準優勝を遂げた。また、三段の部では高木万里子（51）と山本直人（30）の母子ペアが最高位となる優秀賞を獲得した。

切り、ノーミスだつた」。田村は優勝を逃した悔しさよりも、達成感をにじませた。高木と組んでの出場はペスト8だった昨年に次いで2回目。五段への昇段を控えた田村にとつ四段として集大成日本だつた。

三段の部 高木・山本母子が最高位

**杖道** 2人一組の形武道。長さ4尺2寸1分(128セン)、直径8分(2.4セン)の白力シの杖を使用。1人が太刀で攻撃し、杖を持ったもう1人がかわしてみぞおちなど相手の急所を狙う。2組の出場者が3人の審判員の前で6本の演技を行って競う。3本で役割を交代し、姿勢、気勢、打突、技の充実度などで旗判定を受ける。

を控えており、山本と組んでの三段挑戦は今回が最後。山本は「母に優秀賞を取つてもらい、悔いを残さず上にいつてもらいたかつた」と親孝行を果たした。万里子は初戦の2回戦で急に緊張に襲われた。昨年の初戦で山本の顔を杖でたたいてけがをさせてしまったことが頭をよぎった。体が思うように動かす「負けたと思った」というが、3回戦は昨年の準決勝で敗れた神奈川の夫婦ペア。「負けたくない」とより丁寧さ10で勝つと、吹っ切れた。3回戦は今年の準決勝で敗れた万里子は「自信が戻ってきた」と4回戦を3-0で突破し、最後の準決勝も2-1で勝った。山本は「声が出て、しつかりと技も決まつた」と胸を張る。

【浦幌】フットサルの第21回全十勝総合選手権大会兼第23回全日本選手権大会十勝地区予選（十勝地区サッカー協会主催）が12日、町総合スポーツセンターで行われ、帯北高が社会人道リーグに参戦しているソルティエラとかちに得失点差で競り勝ち、初優勝を飾った。帯北高とソルティエラは来年1月20、21日に十勝地区で開催される全道大会の出場権を得た。5チームが出場し、総当たりのリーグ戦を繰り広げた。

帯北高は、10月の全国高校サッカー選手権大会道選を最後にサッカー部を引



ブルでの仕掛けなどを意識してプレーした。全道大会でも帯北らしいプレーで全国大会出場を狙いたい」と胸を張った。同高リッカー部の片桐聰監督は「フィジカルの差や駆け引きのうまさなどを肌で感じる貴重な経験ができたと田

# 帯北高が初優勝 全十勝総合フットサル

△アシスト	【道】	白木3、峰3、
△平子	2、	早坂
△小笠原	2、	堀
△反則	【道】	村上
△シュー	ト数	畔木
△道	1	竹内
△幕	0	【幕】
△35	0	【幕】
△20	0	【幕】